

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ケアステーション21清池(グループホーム)
(ユニット名)	光
所在地 (県・市町村名)	天童市大字清池38-3
記入者名 (管理者)	土屋真紀子
記入日	平成 19年 11月 30日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着したその人らしい生活を過ごしていただくため「笑顔と楽しみのあるゆったりとしたその人らしい暮らし」と「住み慣れた地域で、なじみの場所・人とふれあい・安心できる暮らし」という独自の理念を作りあげ、実現に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスの事業所独自の理念を掲げ、職員が毎朝呼称し、理念を念頭に置き業務を遂行している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールや見やすい場所に理念を掲げ、常に目指す方向性を確かめながら、実践に向け、日々努力している。	管理者及び職員が理念を遂行するため掲げ、共有するとともに理念遂行のための環境作りに努めている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ユニット毎、出入口やホールの見やすい場所に理念を掲げ、分かり易いようにしている。また、家族等に対しても、説明文書を作成配布し、理念の浸透を図っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけたりしており、その都度、積極的に声かけを行い、挨拶が出来るよう努めている。またホーム便りを配布する際にも、ホームに遊びに来るよう積極的に声かけを実施している。更には、旬の野菜などの差し入れなどがあり良好な関係を保持している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭・お祭り・自主防災会への参加活動を利用者と共に積極的に参加しており、地域の方々も心よく受け入れていただいている。また、事業所の活動に対しても積極的に参加していただいている。	○ 今後、更に地域での必要とされる活動や役割を積極的に担っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者のバックグラウンドを生かしてその人にあった役割や暮らしに役立つことについて話し合いをしている。またホーム便り等で、認知症への理解や予防などを記載し、暮らしに生かしてもらおう役立ててもらっている。	○	地域住民や家族等を対象とした介護教室を開催し、認知症への理解や接し方などについての勉強会を開催したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者及び職員がサービス評価の目的や重要性を十分に把握し、月1回の情報交換を行い自己評価に取り組んでいる。また外部評価の結果についても、改善に向けた話し合いを行い、質の向上に努めている。		職員一同評価の意義及び活用について共有しており、また評価の内容についても家族や市関係機関などに配布し、意見などをお聞きし、事業所の運営に反映させている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価については、明らかになった課題等について、会議で報告し、委員からの適切な助言、改善に伴う意見・要望等を受け、話し合いを定期的に行い、改善に向けた取り組みを行いサービスの質の向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市単位で行われる勉強会・研修会への積極的な参加に努めている。また、定期的に訪問連絡をし連携を図っている。また、事業所に定期的に訪問していただく介護相談員とも良好な関係を保持し、常の相談等に応じていただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて、家族等に情報提供が出来るように知識を身につけ、対応が出来るようにしている。また、機会あるごとに職員などに対し、資料等を配布し勉強会を行い、常に対応できるよう準備している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	困り込みによる虐待の防止の重要性を職員一同、十分認識しており、機会あるごとに関係法令などについての教養を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	責任者を定めて契約時に、事業所のケアに関する考え方や、退所を含めた対応などについて十分に説明を行い理解と同意を得るようにしている。また状況の変化により、契約を解約する場合においても、家族等と十分な話し合いを行い、納得した上で、解約をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者の会話や態度・表情からその思いを知り、その時々意見や苦情をに対して常に話し合いを行い、運営に反映させている。また、介護相談員を派遣してもらい入居者の意見の聞き取りや相談等につけて頂いている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便りとともに、近況報告のお便りと、金銭収支報告、領収書を家族等に手渡したり、送付したりし報告している。また、個々の状況等、必要に応じ電話で様子を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じて、家族等から意見要望等の声を頂いている。また、年1回、無記名によるアンケート調査を行い、それらを事業所に反映させている。	意見箱を設置しているが、ほとんどない状況である。そのため、訪問や面会時に意見や要望を聞きだせるような雰囲気作りに努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、運営者と管理者の情報交換の会議を開催している。また定期的なミーティング等において、意見や要望・提案等を聞き、それを運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態や、ペースに合わせたローテーションを組んでおり、その都度、通院やその他の用件等、必要に応じて柔軟に対応できるよう調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、顔なじみの職員によるケアを心がけており、やむを得ない場合には、必ず確実な引継ぎを行いダメージの防止に配慮している。また、新任者についても、責任者を指定し、入居者に対する紹介を丁寧に行っている。更には、ホーム便りなどで紹介し、家族等に対しても配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市・社会福祉協議会などで開催される研修については多くの職員が定期的に受講できるようにしている。また研修を受講してきた職員が、事業所内での研修報告する機会を確保している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会の交換実習やスタッフの研修に積極的に参加・相互訪問を行いサービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に花見・芋煮会・忘年会などの場を作り、相互の気分転換を図る機会を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外出会などの際、運営者も同行してくれたり、また現場にも顔を出し、入居者と共に過ごし、職員の仕事に対する取り組み等、各人の持っている能力についての把握に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接等で、生活状況・ADL状況等を把握するように努め、本人の困っていることや、求めていることを理解することに努力し、責任者を定め、親身に相談に応じられる体制を整えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接等を通じて、家族が困っていること、不安なこと、求めていること十分に理解しどのようなことが対応できるかなど、責任者を定め信頼を確保するように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時において、本人や家族の状況に応じ、何を希望しているのか、あるいは、何を思っているのかを把握し、計画作成担当者(介護支援専門員)の意見を聞き、改善などに向けた提案をし、必要なサービスにつなげるように対応している。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であることを考えたうえで、調理の仕方や、昔の風習などを教えてもらう場面を作り配慮している。また、不安なことやうれしいこと、悲しいこと等の気持ち把握し、一緒に分かち合い支えていく関係作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添い、夏祭り・もちつき大会などの行事に参加やお手伝いなど、日々の出来事などについて情報を共有し、本人と一緒に支えるために家族と同じような思い出支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	夏祭り・もちつき大会などの行事を通じて、一緒に参加していただき、よりよい関係を作っている。また、来訪時には、日常の様子などを伝えたり、話を聞いたりし、コミュニケーション等がスムーズに行われるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて、電話や手紙の支援をしている。また、なじみの場所や行きつけの理美容や病院・医院へ行き、なじみの人々と会うことが出来ており、継続的な交流が出来るように働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う仲間同士で過ごしたり、個別に話したりする場面を作り、利用者の関係がうまくいよう職員一同が見守り調整している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した方や他の施設に異動した方についても、機会を捉え訪問・面会などを行ったり、行事にお誘いしている。	○	職員のための面会となっているので、入居者などを連れて一緒に行くようにしたい。利用が終了しても地域住民として、気軽に遊びに来てもらうよう支援していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から利用者の言動等から情報を集め把握している。意思疎通が困難な方については、家族等に相談し、情報を得て本人の意向を生かしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接等で、その人の生活歴や環境、生い立ち等を把握し、それにあつたサービスが出来るよう情報を把握している。また職員もこの情報を共有し日々積み重ねている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	事前の情報と、入所後の一人ひとりの変化等を把握し対応する大切さ・職員の対応の大切さを多面的に判断し、その人にあつた暮らしが出来るよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望や意見などを聞き取り・個々の心身状態や今後の目標を立て介護計画に反映させており、職員全員でモニタリング・ケアカンファレンス会議を行い、意見交換を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の暮らしの記録やケアカンファレンス会議での意見交換などでその人らしい暮らしが出来るよう定期的に見直しを行っている。また、本人や家族等からの要望や本人の体調・行動の変化・入院に伴うADLの変化に応じ、別に検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルがあり、食事・水分量・排泄等の身体的状況や、生活の様子・本人の言動・職員の気づいた点などを記録して、いつでも職員が確認できるよう保管管理し、情報の共有を徹底させている。また、日々の記録を反映させ介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	毎月、ホーム便りを利用者と共に訪問、配布し良好な関係を保持している。また、必要に応じ各種事件事故や一般的な行事等に協力を得られるよう日頃から、心がけ体制を整えている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームを利用してからも、以前から関わっていた介護支援専門員に最近の状況をお話しさせて頂いており、必要に応じ、相談や協力が得られるよう定期的な訪問をしている。また、希望により訪問理美容サービスを利用していたり、福祉用具取扱業者との情報交換を行い、必要に応じ協力いただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に訪問し、意見・要望などの情報交換を行い協力関係を築いている。また、介護相談員の定期的な訪問をいただき、利用者の相談・事業所に対する意見や要望等に応じていただいている。	○	今後、成年後見人制度が必要とされる、対象者がいた場合には、包括支援センターと協力し、利用できるように支援していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関及びかかりつけ医での医療が受けられるように家族等と協力し、通院介助したり、往診をしていただいている。新たに必要な受診をする場合には、家族に相談するなどして、希望する医療機関で受診できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>シュミレーションなどを行い、職員全員が重度化に対する認識を再度深め、家族や本人などの意向に添えるような体制を目指す。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に敬意の念を持って接しており、名前の呼び方や話し方について注意をはらっている。また、申し送り時などに際しては、個人名を出さず、番号などで対応しており入居者の耳に入らないよう気を配っている。記録などは指定した場所に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	否定したりせず、相手方に合わせ、ゆっくり話を聞いたり、自己決定を尊重している。また、質問の仕方に工夫するなど、返答や選択しやすきように対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、一人ひとりの日常パターンに配慮ながら対応している。また、希望に添った対応支援が出来るように個々に記録化している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴前の衣類交換などの準備は、できる限り本人の意向を尊重しているが、必要により見守り支援している。自己決定しがたい方々には、一緒に考えて本人の気持ちの沿った支援に努めている。また、希望に応じ訪問理美容したり、その他送迎などの支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせて調理・盛り付け・後片付けなどを相談しながら行い、職員と入居者が同じテーブルで楽しく食事が出来るようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は、コーヒー・ココア・お茶・紅茶など数種類を用意し、好み に合わせている。また、いつでも飲んでいただけるよう常に準備している。おやつなどについても、お好みを引き出し希望に添えるよう、また、喜んでもらえるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本として、一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のない方についても時間帯を見計らい、声かけ・誘導・介助を支援している。また、介助の状況を連絡メモに記載し、排泄状況を確認できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯・回数・順番などなるべく希望にあわせた入浴が出来るよう工夫したり、仲の良い同士が入浴できるように支援している。	○	今後、仲間同士の入浴の機会を継続していきたい。また、夜間の入浴についても、体制を見直し、実施していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えている。眠れないときは、温かい飲み物を与え職員が話し相手となり、不安を取り除く工夫をしている。また、一人では不安な方には、家族の了解を得て、夜間のみ2人で休んでもらうような対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや、ボタン付け、洗濯物の折りたたみ、干し柿作り等、各人の得意分野での経験や知識を発揮できるように場面作りの体制を整えている。また、その都度、仕事の達成感に対する感謝の気持ちを伝えている。入居者の希望を取り入れ、外出会・外食会など多く取り入れている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金があるという安心感や、満足感に配慮しながら、家族等の協力を得て小額のお金を持たせている。	○	自分でお金を使う機会が少なく、今後、外出や買い物などのお金を使う場面をもうけて支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物への同行や近隣に対するホーム便りの配布・畑や近くの神社への散歩等、入居者の希望に応じ対応できるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員や気の合う仲間同士あるいは、数人での外出等の計画を定期的実施し支援している。また、家族の協力を得て、外出する機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望がある場合については、プライバシーに配慮しながら支援している。また、封筒・便箋の購入・電話の取次ぎについても個別に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問し易い雰囲気作りに心がけ、常にお茶やお菓子などを準備にしている。また、面会時間が7時から20時までとしているが、それ以外に家族の希望時間帯についても対応できるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、日中の申し送りや、ケア会議のなかで身体拘束のないケアを目指すため、常に職員全員が勉強し自覚するとともに、法人全体で教養を実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	入居者が、外出しそうな様子・雰囲気があれば、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、気が赴く方向に誘導したり、一緒に行動したりし、安全面に配慮し、自由な暮らしが出来るよう支援している。各人の部屋には施錠していない。		基本的には7時から20時までの間は、施錠しないようにしている。しかし、階段があり、入居者の状況・危険が予想される場合に応じ、一時的に階段のところを施錠する場合があるが、家族には事前に説明している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ホールにいる職員がさりげなく利用者の状況に応じ定期的に全員の状況を把握している。また、部屋に入るときは必ずノックし、挨拶してから入るようにしている。また、夜間についても定期的に巡視し利用者の状況等を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くのではなく、入居者の状況に応じ保管している。危険なものについてはロッカーや目に付かないところに保管している。常に本数や量などを適切に確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種事故に関するマニュアルを作成し、必要に応じ訂正するとともに、全員が共用できるようにしている。また、ヒヤリハット・事故報告等で情報を共有し再発防止の徹底を図っている。さらにひとりひとりの状態から予測される危険に対し未然に防ぐ方策を講じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が外部の応急手当(AED)等の講習に参加し対応できる体制を整えている。緊急時対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。	○	不定期的なので、今後は、外部研修を含め、事業所内において月1回は実施するようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、発生時に混乱しないよう常に配慮している。また地区の自主防災会の活動に積極的に参加し、協力をいただける体制を整えている。	○	今後、夜間を想定した訓練や、地域などの協力者を含めた訓練を実施するために話し合いを行い、総合的な訓練を実施したい。非常持ち出し品・備品を再確認して準備する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時や入居後の面接時に、日々の生活状況を踏まえ、今後、起こりえるリスクを説明して理解いただけるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックや日頃の表情・変化等に配慮し、気づいたらすぐに看護師や管理者に報告する体制を整えている。また、連絡ノートなどでその情報を共有対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用など日々使用している個人ファイルに薬の説明書を添付し、いつでも確認できるようにしている。また変更があった場合は、連絡ノートなどに記載し、全員がその情報を共有できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材・乳製品を献立に取り入れている。また、定期的に水分補給を行い、散歩や軽い体操・家事活動等で体を動かす機会を多く設けている。また、医師との相談などで必要に応じ、下剤や整腸剤を処方していただきコントロールしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事終了後に歯磨きをしたり、緑茶でうがいする等日常的に口腔ケアを実施している。また、ひとりひとりの力に応じた介助や見守り、声かけ支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立担当者が栄養バランスを考え、メニューを作成しており、月2回カロリー計算をしている。また、食事や水分摂取状況をチェックし、記録化を図り、職員が利用者の状況を把握できるようにしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルに基づき、日々衛生面に気をつけ、兆候が見られたら、躊躇せず受診対応し、予防・発見・治療そして、隔離がスムーズ行えるような体制を整えている。また、本人や家族等の希望などのより、協力医療機関と連携しインフルエンザ予防接種を受けている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルに基づき、調理担当者を決め、台所・調理用具等の衛生管理を実行している。食材については、買いだめをせず、毎日その日、必要な物を買って新鮮な食材を提供している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	「清池の家」の親しみやすい表札を玄関に設置したり、玄関先のプランターに季節ごとの花を植えたりしている。また、近所の方々のご好意により、地域の方々が丹精こめめた盆栽などを飾らせていただいている。また玄関先には、椅子やテーブルを置き、気軽に利用できるようにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	直接、日差しが当たらない様にブラインドで調整している。また、季節の花・行事や外出時における写真を飾ったりし、季節感や生活感を感じられるように工夫している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテレビ・ソファ、冬にはコタツを置き、利用者同士が、思い思い過ごせるように工夫している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人及び家族と相談しながら、使い慣れた家具やテレビ・思い出の品などを持ち込んでもらい、自宅と同じように落ち着いて生活が出来るように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭気のする排水口には、定期的にパイプなどを清掃しているが、改装建築物であり、風向きや季節によってにおいが感じる場合がある。そのため、温度計などを設置し、こまめに外気を取り入れながら室温を見ながら調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の低下や変化に合わせた手すり、滑り止めを設置している。また、座る椅子、椅子の奥行きなどきめ細かく調整している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	何が分かりにくいのかを入居者の状況に合わせて、環境整備を行っている。また各部屋に表札、トイレも分かり易いように表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには洗濯物や布団を干したり、プランターの花に水をやったり、畑の収穫をしたりして活動的な生活をしている。また、玄関には椅子やベンチをおいて涼んだり、日向ぼっこできるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1 最低月1回、全員で外出を企画したり、日常的にも可能な限りドライブや散歩に出かけ、気分転換を図るようにしている。
- 2 日々の生活の中にも体操や歌を歌ったりゲームをしたり、計算パズル・ぬり絵・箱折り等の活動を取り入れ、刺激のある生活が送れるよう支援している。
- 3 毎年、入居者の家族等に対して、無記名のアンケート調査を行い要望・意見などをお聞きし、事業所の運営に反映させている。